

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072100645		
法人名	有限会社 すわ福祉ネット		
事業所名	グループホーム さちの里		
所在地	群馬県金古町987-1		
自己評価作成日	平成26年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成26年10月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・当ホームは住宅街と田園が周囲にある静かな環境に立地している。また、敷地内には草花や樹木が植えられており園芸活動に入居者が参加できる。また、隣接の農地にて野菜等を栽培しホームの食卓に出している。入居者も栽培・収穫に参加することができる。日常、介護予防のため散歩・運動を積極的に取り入れ、下肢筋力の低下予防・気分転換を図れるよう支援している。 ・「安心の得られるケア」を理念の中心にケアの実践を目指している。 ・季節に応じ小旅行や行事を取り入れ外出の機会も多く設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、「能力を最大限に発揮できるケア」や「生きがいや喜びを見いだせるケア」など5項目の理念を掲げ、管理者が中心となり申し送りや話し合いで介護の場面を振り返り、理念に沿ったケアの提供ができていくか確認しながら支援している。日常において利用者は、清掃・洗濯物干しや食事の準備・配膳、食前・食後の挨拶の担当など、一人ひとりの能力に応じて出来ることを職員と一緒にこなすことで、「能力を最大限に発揮できるケア」として理念にあった支援を行い、また、居室には家族に昔の本人の様子を聞き、趣味としていた自作の絵画を飾ることを勧めたり、歌う事の喜びを入居してから導き開花させるといった「生きがいや喜びを見いだせるケア」の理念を意識したケアに取り組んでいる。また、事業所の畑で栽培した採れたてで旬な野菜や果実などを地元の味付けにして提供したり、散歩・運動を積極的に取り入れ、下肢筋力の維持・気分転換を図れるよう支援している点も、当事業所の環境利点や出来る事を検討し独自に行っている工夫点である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者が地域の一員として生活できるように運営理念の中に規程している。すべてのスタッフはその理念を共有して生活を支援している。	事業所は、「自由と意思を尊重したケア」「地域社会との結びつきを大切にケア」など5項目から成る理念がある。その中心に「安心の得られるケア」を置き、日々のケアの中で、身体的な安心では確実な移乗介助の習得や、精神の安心では利用者をそのまま受け止める姿勢を重視するといった話し合いを行い、実践できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の神社の祭りや運動会で交流があったり、事業所の行事に地域の方が参加・交流があったり、地域のボランティア団体・個人も訪問し各種の交流が図られている。	日常の散歩時に、近隣の方々と挨拶や会話を交わし、馴染みの関係を築いている。地域の祭りに参加を行ない地域の人達と顔見知りになり、地域の方が利用者の徘徊時に保護して下さる等、理解や支援を頂いている。その他、地域のカラオケのボランティアや小学生の体験学習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個々の相談に対応したり、婦人会・長寿会等より要望を受け座談会・講演を行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月毎に1回、入居者・家族介護者・区長・長寿会長・民生委員・市職員・ホーム職員等のメンバーにより開催。活動状況の報告・入居者の生活状況・評価結果等を議事として意見交換を行い、議事内容を掲示・家族にも周知している。	会議には利用者が交替で参加し、主に写真付きの詳細な行事活動報告やヒヤリハット事例の報告を行っている。参加者の在宅時の介護体験談や時事の話題から、素朴な質問と回答のやり取りがあり、徘徊する利用者への対策や防災対策についても意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受け入れ・消防署との連携・生活保護担当者との連絡・介護保険担当者との連絡及び調整に取り組んでいる。	市の担当者とは、運営推進会議の他に空き室状況や生活保護受給者についての相談を、その都度、電話や直接出向き伝え、指導助言を受け連携しながらサービス向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で身体拘束に関わる学習の機会を設け周知を図っている。関係法令を遵守し対応している。	外出傾向のある人については、その人の様子を観察しながら職員が付き添い支援している。また、転落事故防止などのため、やむをえずベッド柵等を使用する場合には、家族の了承を得ている。玄関の鍵は、職員の勤務体制等により開閉している。	外出傾向のある人については、情報収集・分析を行い、課題のポイントを職員が周知することで、施錠することが回避されることを期待したい。また、身体拘束に関する外部研修の参加・内部研修会の開催を促し、拘束に対する理解を深めた上、しないケアの実践に取り組まれるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で高齢者の虐待防止に関わる学習の機会を設け周知を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内にて学習の機会を設けている。必要に応じて、権利擁護の内容を家族介護者に説明したことがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章と口頭にて十分な説明を行い、承諾も得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情の窓口(苦情箱も含む)を設置している。また、家族・利用者が運営推進会議に参加し意見を述べる機会を設けている。結果については情報公開している。介護相談員派遣事業を受けている。	意見箱設置の他、管理者が中心になり家族の面会時に直接意見を聞くようにしている。そこでの家族からの意見や要望は、職員に周知されている。また、運営推進会議への参加、介護相談員派遣事業の受け入れでは、利用者・家族の相談や苦情を外部者に表出する機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時や個別に、職員より意見や提案を聞く機会を設けて、運営に反映させている。	ケア方法についての提案等の職員意見は、主に日々の申し送り時に聞いている。また、運営に関する意見は、運営推進会議に職員が出席し、意見を言える機会がある。その他、希望休や勤務時間などの要望は、その都度管理者が直接話を聞き、勤務表作成に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各職員が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備・向上に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム間にて職員を受け入れたり、派遣したりする活動を実施している。また、同業者間による勉強会・研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者を中心にアセスメントを行い生活上の課題・問題を把握し、そこからの要望等を尊重しながら良好な人間関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントで得られた情報・課題を把握し、家族の思いを尊重した関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の面接時に確認できた課題に対して、課題の解決に向け他のサービス利用も含めた相談・援助活動を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が生活の中心であると認識し生活を支え合うような人間関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との対話を密にし、要望・ニーズを受け入れ協働で入居者を支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所以外でも今までの人間関係が継続して営まれている。(一時帰宅等で)また、関係者が気楽に来所し入居者と交流が図れるよう努めている。	利用者の希望の買い物などは、職員が同行している。家族と一緒に受診後に食事や買い物をすることもある。家族の状況も伺いながら、馴染みの美容院に外出されたり、誕生日やお盆・正月などに合わせて自宅で家族と一緒に過ごしてもらったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がお互いを尊重し・楽しく生活できるように人間関係を調整している。グループワークやレクリエーション等の集団活動で支え合いが認められる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談・援助活動を行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いやる気持ちを把握して生活を支援している。訴えが困難な場合でも入居者の視点に立ってニーズの把握に努めている。	言葉で思いや意向を表せる利用者もいるが、表情や日頃のしぐさから思いを把握するようにしている。より意向が表出しやすいようにする・しないといった選択する設定にして聞いたり、普段なげない時に表れる気持ちの吐露を受け止められるようつかず離れずの距離で見守りを行ったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らし・介護情報を把握し、生活を支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康面・生活内容・心身の状態等を多面的に把握し、それを記録化している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の来訪時には暮らしぶりを報告し、意見や要望を伺い反映させるようにしている。また、介護計画の作成過程に介護スタッフの意見・アイデアも入れている。	情報収集やアセスメント、関係者からの意見を集め、管理者が中心になり計画を立案している。出来上がった計画は、職員も目を通して意見ももらっている。計画は月に一度モニタリングして評価し、それに伴い職員から変化を聞いている。また計画を3ヶ月に一度見直し、新人職員には書類を見やすい所に置き、介護のポイントを申し送り時にわかりやすく伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活内容を個別計画に具体的に記入している。業務・申し送り日誌を活かし、口頭と文章で情報の伝達を行いケースによってはカンファレンスを行ったり、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症介護の実務を活かした相談・援助活動を行っている。また、共用型の認知症対応型通所介護サービスも利用できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民、民生委員、長寿会、ボランティア、介護相談員、消防署等より協力を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望されるかかりつけ医を継続利用できるよう支援している。	医療機関の受診は家族の付き添いで、それまでのかかりつけ医に受診している。身体機能面で移動が困難な利用者には職員が介助し、スムーズに受診できるように日頃の状況を紙面にまとめて渡している。結果報告は記録に残し、内服提供書なども参考に、職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	在勤の看護職と情報交換を行い、助言を受けながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と家族、ホーム側で早期退院に向けて十分な話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の介護については本人や家族の希望を尊重し介護を行う旨を説明している。	重度化や終末期の対応は、入居する際に、希望を聞きながら家族の協力のもとにできる限り支援を行なうことを伝えている。家族の思いや協力の有無・対応できる医療行為を時期になると話し合うが、ケースごとに重度化の度合いや終末期の医療支援の介入には違いがあるため、統一した方針はない。重度化してきたため話し合いの結果、特別養護老人ホームへの申し込み・入所となったケースもある。	重度化や終末期においては、これまでのケースも踏まえ、職員の心構えや看取りに関する研修も取り入れ、事業所の方針や体制づくりの整備がなされることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急救・救命講習の受講をしている。職場内においても学習の機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受け定期的に防災訓練を実施している。災害時のマニュアルも作成してある。担当区長より災害時の応援要請を了解されている。	年2回、消防署立会のもとに夜間想定で避難訓練を実施している。区長も地域防災を意識して訓練に参加し、災害時のマニュアル確認や地域住民の緊急連絡先整備、飲水・食料品等の備蓄を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いや訴えを否定せず共感し、傾聴している。(その場所も考慮しながら)また、過ちについても指摘せず、自らが気付けるよう導いている。	排泄介助や入浴介助中は、利用者に恥ずかしさを感じさせない対応を心がけている。また利用者の話を否定せず聞くことで、相手を尊重する姿勢を示し、利用者それぞれの誇りやプライバシーの範囲を考え、どのような場面でも心情をおもんばかり対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉が表出しやすいように支援している。(せかさない・繰り返し聞く等)言葉で表出できないような場合では、利用者の態度・表情より意思を汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに対して、過し方等を問いかけて活動を決定するようにしている。集団活動を強要していない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自主性を尊重しながら、一人ひとりに応じた身だしなみ・おしゃれの支援をしている。活動後には褒めることにより相乗効果を図っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に応じて、食事準備(調理・盛り付け)テーブル拭き・配茶・配膳・下膳・食器等の片付けに参加している。	食材・献立は週5日業者に委託し、その献立に合わせて事業所で調理している。また、事業所の畑で栽培した採れ立てで旬な野菜や果実などを地元の味付けにして提供している。職員は交代で食事を一緒にとり、利用者は配膳・下膳等出来ることを職員と一緒にしながら、楽しく補い合いながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部の栄養士による献立にて食事を提供している。一人ひとりの能力に応じて、食事内容も調理・介助している。水分確保においては好み・習慣に応じて種々の飲料を提供している。適量を摂取できるよう一人ひとりに応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。夕食後には入れ歯洗浄剤にて入れ歯の管理をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄が行えるように、定時及び随時にトイレ誘導し介助を行っている。夜間におむつを使用している利用者も日中はおむつを外している。一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し対応している。	日中は、全員のトイレ誘導、介助を行なっている。退院後に導尿していた利用者は、リハビリの実施や定期的なトイレ誘導などを行い、本人の排泄能力や意欲を見極めて、トイレでの排泄が可能になるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を個々に把握し、日頃より水分摂取・運動(散歩)・食事内容等により便秘の予防に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの生活習慣を考慮したり、希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。(ゆっくり入浴できたり)	入浴は、週3回午前中に実施している。身体能力や希望を伺い、入る順番は決めているが、一人ひとりが職員と会話をしながらゆっくりと入浴が楽しめるよう時間をかけ支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、安眠や休息が取れるように支援している。(寝具等の調整を含む)また、眠気や要休息等の状況にも随時、安眠・休息等の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況が確認できるようファイルしてある。また、適切に服薬できるよう常に複数名で介助を行っている。体調面の変化も常時、観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが何らかの役割を持てるよう支援している。活動後賞賛し、喜びが得られるよう対応している。入居後、新たな趣味活動が増えた利用者も多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望により散歩の機会を多く取り入れている。また、利用者等関係者と相談し観光地やショッピング施設等にも出かけられるよう支援している。	天気の良い日は近隣を散歩したり、野菜畑に出たりしている。また、希望により、100円ショップに出かけたり、買いたい物がある場合は個別に出掛けたりしている。大勢で出かける外出は年間計画を立て、家族やボランティアにも依頼して、季節毎の花見や公園散歩・紅葉狩りに出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者より金銭を所持したい意思があれば家族と相談し、所持を援助している。(少額)買物や外出時に利用者に購入したいものがあれば購入してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により電話の使用を援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや玄関に花が生けられている。季節に応じて貼り絵やぬり絵を壁面に飾ったりもしている。外の景観を楽しめる環境になっている。快適な環境で過ごせるよう随時、調整も行っている。	居間から続くサンルームからは、明るい光が差し込み、外の景色を眺めることができる。また台所からダイニングテーブルや畳のコーナーが見渡せ、食事を作りながら利用者の様子をうかがい、会話することができ、家庭のような風景が見受けられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが和室・ホールにて思い思いに過ごしたり、数箇所のソファでも自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や調度品等が持ち込まれている。入居後の趣味活動での作品を飾ったりもしている。	居室には、使い慣れたタンス等の家具や仏壇が持ち込まれている。また、壁面には本人の手作りの作品や趣味としていた自作の絵画が飾られる等、本人が落ち着いて過ごせるような環境作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの動作能力を活かせるようにしたり、転倒等の事故を予防するため、安全に配慮した環境作りに配慮している。		